

## [成 就]

「私のことばは、その時が来れば実現します」(ルカ 1:20)  
「主が……約束されたすべての良いことは、一つもたがわず、みな実現した」  
(ヨシュア 21:45)

成就！

おお なんと美しいことばだろう！  
うみ疲れた多くの歳月ののちに  
あらゆる苦しみと涙ののちに  
あらゆる疑いと恐れののちに  
それは成就するのだ！

成就！

そうだ 神の約束は 残らず守られる！  
長く待ち 望み おののいたのちに  
光り輝く希望の消え去ったのちに  
見よ 約束のとおり 実現されるのだ  
それは成就するのだ！

成就！

約束のすべてのものと 多くの余分が  
あなたの持ちきれないほどに  
押しつめ 押し込め あふれさせられる  
たれこめていた雲は去り 門は開かれる  
それが成就なのだ！

フランシス・メトカフ

## ■失望における訓練 (1/3)

心に安らぎがなく……。 (Ⅱコリント 2:13)

心から期待していたことが痛々しい敗北に終わり、心がはずむ思いで抱いていた幸福に満ちた希望が無残にも踏みにじられ、心に描いていた甘い夢が破られたときの失望状態—あの深い暗い陰気な落胆から来る失望状態—を、一度も味わったことのない人がいるだろうか。

私たちは、そういう結果になるように初めから計画していたわけではない。私たちは、偽りを言わず喜んで建設的に協力する、真に信頼できる友人や助け手を必要としていたのに、彼らは私たちを裏切った。与えられた仕事を全うするために健康な体を必要としていたのに、私たちの力は哀れなほど貧弱であった。神の栄光をあらゆる価値あるゴールに到達するために豊かな資力が必要であったのに、私たちの資力は悲しくなるほど不十分であった。奨励と熱意を必要としていたのに、私たちの受ける唯一の報いは痛烈な批判か、あるいは作為的な冷淡さだけであった。私たちは人の約束を信じたが、それは一陣の風のように頼りないものであった。私たちは利益を受ける代わりに苦痛を刈り取った。こうして私たちは失望の底に沈んだ。

もしそれが私たち自身の落度によるのであったなら、たましいの苦悩はこれほど

に耐えがたいものではなかったであろう。しかし、他人を頼み、健康を維持し、物的資力を保持しようとし、あらゆる面で最善を尽くしたのに、すべての努力は水泡に帰し、失望だけが残されたのである。私たちの努力と犠牲に対して与えられるものは幻滅、絶望、敗北である。私たちは自分をあわれむようになる。自己憐憫は酸のように私たちの心をむしばみ、他人をも汚す。なぜ進み続けるのか。なぜ努力し続けるのか。なぜ微笑しているのか。なぜ他人を信用するのか。失望によって空中楼阁が消え去ってしまった以上、なぜ自分のテントの中ですねたり、他人を軽蔑することによって自分の傷ついたたましいをいやそうとしたりすることがいけないのか。

幻滅、絶望、敗北、下劣な自己憐憫などは、失望したたましいを満足させたり、いやしたりはしない。ただ前進することによってのみ満たされ、いやされる。使徒パウロの経験はそのすばらしい実例である（Ⅱコリント 2:12-14）。彼は古い町のトロアス（トロイ）でテトスに再会できるものと思っていたが、テトスは姿を見せなかった。その理由は示唆されていない。ただ、パウロは心を安んずることができなかったと書かれている。このような失望に対して、彼はどうしたか。前進したのである。至高者なる神は「いつでも、私たちを導いてキリストによる勝利の行列に加え」たもうという確信ゆえに感謝して、前進したのである（14 節）。

感謝の心は助けをもたらす。感謝の心を持つ者は、信仰生活における試練だけでなく数多くの勝利を思い起こし、多くの危険だけでなくみことばの中の多くのお約束を思い起こす。パウロは、さまざまな環境において感謝した。命が脅かされるようなあらしのさなかに、食物と隠れ場のために感謝した（使徒 27:35）。遠い地にある忠実な兄弟たちのために感謝した（ローマ 1:8、Ⅰコリント 1:4、ピリピ 1:3、その他）。何にもまさって、ことばに表せないほどの神の賜物、主イエス・キリストのゆえに感謝した（Ⅱコリント 9:15）。それでこそ、彼は、すべてのことについて感謝するように（コロサイ 3:15、エペソ 5:20）、特に祈りにおいて、自分の求めるところを神に申し上げるときに感謝するように（ピリピ 4:6、コロサイ 4:2）と、私たちに強く迫ることができた。神の多くの恵みを感謝する心こそ、人間的な失望という苦さによってではなく、神の御霊の甘美さによって味つけられる。